

榊原 知美

SAKAKIBARA, Tomomi



【共同研究】

- 国際教育センター共同研究プロジェクト「文化間移動をする子どもの発達・学習に関する心理学的研究—就学後の学力を支える多文化保育のあり方を探る」(研究代表 榊原知美)

本プロジェクトは、学習上の困難を経験しやすい多文化的背景をもつ子どもの発達や学習を促す、文化的多様性を考慮した保育のあり方について、心理学および保育実践の視点から検討するものである。平成29年度は、中華系の保育所および外国人学校附属の幼稚園の5歳児クラスにおいて実施した保育活動の縦断的自然観察および保育者への面接データの分析を進めた。これによって得られた知見の一部が『保育学研究 第56巻3号』(2018年12月発行)に論文として掲載される予定である。

【科研費等の研究】

- 平成30-33年度 科研費 基盤研究 (C)「文化的実践への参加を通じた数量発達と大人の支援：1歳から3歳までの縦断的研究」(研究代表 榊原知美)

幼児早期の1~3歳児が参加する文化的実践としての家庭および保育園での活動に注目し、幼児の数量概念の発達過程を大人の数量支援の構造との関係で縦断的に捉えることを目的とした研究である。本研究では特に、子どもが家庭や保育園での活動において自発的に行う数量行動の1歳から3歳までの間の発達の変化、それに対する保育者や保護者の支援とその変化、の2つの側面について検討する。

- 平成27-30年度 科研費 基盤研究 (C)「多文化状況の保育活動における幼児の数量発達と保育者の支援に関する研究」(研究代表 榊原知美)

多文化状況にある保育活動への参加を通じた幼児の数量概念の発達過程と、それを支える保育者の支援の文化的特徴を解明することを目的とした研究である。保育の文化状況としては、保育者が文化的多数派とならない次の2つの状況、1. 文化的少数者の保育者が文化的多数者の幼児集団を保育する状況(状況1)、2. 保育者集団内と幼児集団内に文化的多様性がある状況(状況2)を対象とする。平成29年度は、状況1と状況2の園において収集したデータの分析を継続して進めた。

- 平成28-30年度 科研費 基盤研究 (C)「対話的異文化理解の教育方法をめぐる実践及び理論的研究」(研究代表 呉宣児) 前橋国際大学

大学生の異文化理解を促す授業実践の開発を行うことを目的とした研究である。日中韓の大学において、映画やイラストなどを共通の素材に用いた交流授業を行い、学生同士が対話の過程で経験する違和感を通して異文化理解を促すことを目指す。本研究ではさらに、学生の異文化理解過程の詳細な分析も行い、理論的な面からの考察を加えることで、心理学における文化理論の見直しも行う。平成29年度は、片成男(中国政法大学)と共同で「交通ルールのとらえ方」をテーマに交流授業を行った。

- 平成28年度 若手教員等研究支援費(若手教員支援枠)「幼児の自発的な多文化共生方略と保育者の援助—日本および台湾における事例を通じた検討—」(研究代表 榊原知美)

本研究では、これまであまり注目されてこなかった多文化的な文脈における幼児の自発的な関係調整過程に注目し、多文化状況の保育における幼児の自発的な共生の試みと、それを促す保育者の援助のあり方について検討することを目的とした。台北の日系幼稚園3園における保育者の面接からは、言葉が通じない子ども同士のやり取りを促す工夫として、言葉を使わずにコミュニケーションできる場を作る、グループに多様性がでるようルール化する、自分が話せる言葉が必要とされているときには助け合うように子どもに促すこ

となどが報告された。また、保育で重視していることとして、「自分で考えて行動する」といった子どもの自律性を促すことの重要性が強調された。

【研究業績】

1.論文

- 黄琬茜・山名裕子・榊原知美・和田香(印刷中) 多文化保育における幼児のこぼれ：5歳児のコードスイッチングに着目して、保育学研究, 56 (3)
- 榊原知美(2018) 保育がはぐくむ幼児の数量知識—幼小での連続性ある援助を目指して 初等教育資料, 965, 72-75
- Sakakibara, T. (2017). Intercultural understanding through intergroup dialogue between Japanese and Chinese university students. *Integrative Psychological and Behavioral Science*, 51 (3).

2.学会発表等

- 榊原知美(2018.1) 数量知識の獲得の文化的文脈 日本発達心理学会認知発達理論分科会第54回例会でのショートレクチャー、名古屋
- Sakakibara, T., Wada, M., Yamana, Y., & Huang, W. (2016.7). Young children's spontaneous symbiotic strategies in a multi-cultural preschool. The 31st International Congress of Psychology, Yokohama, Japan.
- 榊原 知美・和田 美香(2016. 5). 多文化保育における子どもの自発的な共生方略と保育者の援助 ラウンドテーブル「多文化保育から子どもの発達を考える」での話題提供(企画者 榊原 知美) 日本発達心理学会第27回大会、北海道大学
- 榊原知美(2016. 4). 日中の大学生による対話的交流授業における異文化理解プロセス シンポジウム「プロセスから考える異文化理解」での話題提供(企画者 渡辺 忠温, 榊原 知美) 日本発達心理学会第27回大会、北海道大学

3.その他

- 文部科学省(著)『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館)の作成協力 2018年3月

【主な学会活動】

- 日本心理学会
- 日本発達心理学会
- 日本教育心理学会
- 日本保育学会
- International Journal of Educational Studies in Mathematics (Scientific Committee)

【社会的活動】

- 平成29年度免許状更新講習 講師(必修講習)「子どもの変化についての理解—子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」2017年8月
- 平成28年度第1回JSL研修「文化の中の子どもの学び—「数」理解の生得的基盤と社会文化的影響」における講義 2016年5月

【教育活動】

- 「異文化間心理学」「国際教育演習B」「国際教育特別研究」東京学芸大学教育学部
- 「文化心理学演習」東京学芸大学大学院教育学研究科
- 東京学芸大学教育学部国際教育選修および大学院教育学研究科学校心理専攻において卒論・修論指導を行った。